

東京大学東洋文化研究所  
附属東洋学研究情報センター

平成25年度事業報告

平成26年6月

## 目 次

1. センター概要 .....	2
2. 教員 .....	3
3. 委員会等 .....	3
4. プロジェクト事業 .....	4
1) 公募プロジェクト .....	4
2) センター機関推進プロジェクト .....	17
○重点プロジェクト .....	18
○一般プロジェクト .....	26
5. 研究成果の公開・発信事業 .....	27
6. 研修事業 .....	29
7. その他 .....	30

# 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

## 1. センター概要

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略）は、東洋学文献センター（昭和41年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成11年4月1日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野、比較文献資料学分野及び平成21年度から増設されたアジア社会・情報分野の3つに分かれる。

造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、アジア諸言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を、アジア社会・情報分野は、アジア・バロメーターなどのデジタル化された社会調査資料を主な研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授1、比較文献資料学分野担当の教授3、アジア社会・情報分野担当の教授2からなる。

平成15年度から、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、さらに、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施するようになった。現在では、これらは機関推進プロジェクトとして継続的に実施されている。

平成21年6月には、文部科学大臣によって共同利用・共同研究拠点に認定され、翌平成22年度から全国の関連研究者コミュニティに対し、より開かれたセンターとしての活動を開始した。共同研究は上記の3分野にまたがって公募され、学内外の委員からなる運営委員会での審議によって選抜・評価されている。

文献資料とデータベースはこれまでも広く国内外の研究者・学生に公開し利用されてきたが、それ以外の研究資源も含めた使いやすい公開方法の整備、より高次元なアジア研究データベース開発を通じ、研究者コミュニティや社会の要望に応え、新しい共同研究に発展しうるような共同利用の実現を目指している。

平成21～24年度には、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業に「アジア比較社会研究のフロンティア」が採択され、アジア社会・情報分野を中心に3年計画での最終年度が終了し、大きな成果を得た。

## 2. 教員

センター長	教授	大木 康
副センター長	教授	長澤 榮治
	教授	板倉 聖哲
	教授	名和 克郎
	教授	園田 茂人
	教授	松田 康博

## 3. 委員会等

### 1) センター運営委員会

開催日 平成25年6月 6日(木) 16:00～

平成26年2月13日(木) 15:00～

#### 運営委員会委員

大木 康	東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター長
長澤 榮治	東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター 副センター長 比較文献資料学分野・教授
池本 幸生	東京大学東洋文化研究所汎アジア部門・教授
大西 克也	東京大学大学院人文社会系研究科・教授
村田 雄二郎	東京大学大学院総合文化研究科・教授
加藤 博	一橋大学大学院経済学研究科・特任教授
小長谷 有紀	人間文化研究機構・国立民族学博物館民族社会研究部・教授
岩井 茂樹	京都大学人文科学研究所人文学研究部・教授
宮治 昭	名古屋大学・名誉教授
宮 篤博史	成均館大学校東アジア学術院 (韓国・ソウル)・教授
柳澤 悠	東京大学・名誉教授

## 2) センター委員会

### 開催日

平成25年	4月23日(火)	15:30～
平成25年	5月28日(火)	15:00～
平成25年	9月10日(火)	14:30～
平成25年10月	1日(火)	14:30～
平成25年11月	12日(火)	14:30～
平成25年12月	3日(火)	14:30～
平成26年	1月14日(火)	14:30～
平成26年	2月4日(火)	15:30～
平成26年	3月4日(火)	14:30～

### センター委員会委員

長 澤 榮 治	比較文献資料学分野、委員長
板 倉 聖 哲	造形資料学分野
大 木 康	比較文献資料学分野
名 和 克 郎	比較文献資料学分野
園 田 茂 人	アジア社会・情報分野
松 田 康 博	アジア社会・情報分野

## 4. プロジェクト事業

### 1) 公募プロジェクト

センターに蓄積されてきたアジアのデータベースを含む諸資料、人的ネットワーク、施設を活用し、アジア各地に関する多様な情報を、時間軸、空間軸に沿って比較・俯瞰し、アジアと世界の新しい理解方法を提案するための共同研究を募集し、実施している。平成25年度は新規課題2件、継続課題2件を採択した。平成25年度の実績報告書は以下の通り。

#### 課題1：日本漢籍集散の文化史的研究－「図書寮文庫」を対象とする通時的蔵書研究の試み－

##### 研究者

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 住吉 朋彦（申請者）

京都大学人文科学研究所・教授 金 文京

慶應義塾大学文学部・教授 佐藤 道生

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 高橋 智

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 堀川 貴司

国文学研究資料館・教授 陳 捷

国立歴史民俗博物館・准教授 小倉 慈司

東京大学東洋文化研究所東アジア第二部門・教授 大木 康

研究期間：平成24年4月1日～平成26年3月31日（2年間）

#### ◆課題の概要

本研究は、日本に伝来する漢籍が、日本文化の形成にどのように寄与したかを明らかにするために構想された。また目標達成のため、日本漢籍を、伝来を同じくする群、即ち蔵書として捉え、個別の伝本を蔵書の中に位置付け、蔵書ごとに日本文化との関わりを観察する方法を用いた。蔵書は静止せず、集散する性質をもつから、伝本の調査を重ね、その集散を捉えることが、研究の基礎として要請された。また研究の対象として、宮内庁書陵部図書寮文庫収蔵の漢籍を選んだ。これは図書寮文庫が、江戸幕府紅葉山文庫の善本を引き継いでおり、さらに紅葉山文庫を通じ、中世以前の金沢文庫本等の一部を保存し、日本漢籍史上最重要な蔵書と認められるからである。また図書寮文庫には、江戸幕府昌平坂学問所収蔵の善本や、同教官古賀家の蔵本他、近代以降、皇室に献上された諸家の図書を収蔵し、それぞれ日本漢籍を含むことから、同様に調査の対象とした。但し対象とする図書は膨大であるため、日本文化史の古層に関係する、中世以前伝来の漢籍を当面の対象とした。この研究を成し遂げるため、文献学を専門とする研究者を集めたが、さらに大学院生を含む若手研究者に原本調査方法の研修を実施して参加を促し、態勢の拡大に努めた。また調査結果を個別にも公開するため、伝本の書誌と全文の映像を提供するデータベースの作成を実行した。こうした実態により、本研究では、図書寮文庫収蔵漢籍の伝本に書誌調査を加え、伝来の経緯と伝来中の漢籍習学の痕跡を記録、集積し、蔵書の転変を明らかにした。

#### ◆平成25年度の研究実施状況

今年度も、図書寮文庫の原本調査を行い、旧鈔本、宋刊本について70種697点の書誌データを著録した。これらの内容について、調査担当者が他の伝本との比較研究を行った後、計7回の検討会を開いて、参加者全員による点検を行い、25種398点についてデータを確定した。これにより、漢籍四部に涉って書誌データを蓄積したが、中でも経部18種146点を完了したため、昨年度来開発してきたデータベースに実装することとした。データベースのシステム開発は、昨年度の基礎工作に加え、今年度の経部実装に際し、書誌全文や版本刻工等の検索項目、著録基準箇所の書影抽出等、表示機能を追加し、インターフェースの改善を施して、実用性を高めた。原本の写真画像取得の方面では、既存のデジタル画像に加え、マイクロフィルムスキャンの手法により、宋版大般若経9410カットのデジタル画像を収集した。その結果、年度の後半にデータベース製作の報告を行うに至った。

#### ◆平成25年度の研究成果の概要

本研究の今年度の成果は、まず原本調査に基づく図書寮文庫蔵漢籍旧鈔本、宋刊本25種について検討を加え、書誌データを補訂すると同時に、解題研究を進めたことにある。その結果、中世の金沢文庫蔵書形成の一端や、幕末の紅葉山文庫の蒐集、近代に於ける禅院蔵書の流通と皇室の収蔵など、各段階に於ける蔵書形成と漢籍集散の動態が、立体的に把握された。これらの成果は、まず書誌データとそれに基づく目録の記述に集約した。その内容は四部に渉るが、特に経部について著録を完了した。データを収録するデジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」の開発では、各画面に於ける改善が進められ、特に書誌データベースは、著録の根拠となった箇所の手書影を表示する機能を備えたことで、書誌書影データベースに成長した。さらに学術的使用を想定し、書誌書影と全文影像を相互に参照できるよう変更を加えた。これらの成果は、平成25年12月7日に東京大学東洋文化研究所で行われた報告会に於いて、6件の研究報告と、デジタルアーカイブの紹介として公表された。

#### 課題2：チベット美術の情報プラットフォームの構築と公開

##### 研究者

金沢大学・教授 森 雅秀（申請者）

金沢大学・准教授 高田 良宏

高野山大学・教授 乾 仁志

鶴見大学・非常勤講師 矢島 道彦

東京外国語大学・教授 高島 淳

人文情報学研究所・所長 永崎 研宣

人文情報学研究所・研究員 苫米地 等流

北海道大学スラブ研究センター・学術研究員 高本 康子

東京大学東洋文化研究所南アジア部門・准教授 馬場 紀寿

研究期間：平成24年4月1日～平成26年3月31日（2年間）

#### ◆課題の概要

東洋学、さらには人文学における非文献リポジトリ開発のモデルケースとして、仏教美術を中心としたチベット美術の情報プラットフォームの整備と公開を行う。わが国の諸研究機関に所蔵されているチベット美術の画像データを整理・統合し、インターネット上で公開するための統一フォーマットを開発する。チベット美術の主要なジャンルである絵画、彫刻、工芸、壁画、建築などに関する画像データを中心に、作品そのものの基礎的情報、関連するテキストの文字情報、書誌情報、地理的情報などをリンクさせ、全体を一元的に扱う情報プラットフォームを構築し、非文献リポジトリの国際的な標準としての普及をはかる。図像資料を中心に仏教学、美術史、建築史学、民俗学、宗教学、歴史学などのさまざまな分野の成果を統合することで、総合的なチベット仏教美術の研究

基盤を確立させるとともに、人文科学における情報の整理、統合、発信にかかわる基本的なモデルを提供する。さらに、国内の大学に附置されているインド学仏教学関係の研究機関を横断的に連携させることで、それぞれが所有する貴重な研究資料やデータの共有と有効な活用、設備・備品の効果的な導入、人材の活用や合理化を進め、さまざまな分野での連携・活性化を将来的に可能とする。

#### ◆平成25年度の研究実施状況

(1) 鶴見大学図書館に所蔵されている戦前の逸見梅栄のチベット関係の画像資料について、基本的なデータベースを作成した。鶴見大学図書館において、データの調査、写真撮影、過去の出版物との照合などを行った。また、被写体の確定と現在の状況との比較のために、中国の承德市と北京市において、現地調査を実施した。

(2) 高野山大学が所蔵するラダック地方およびグゲ地方のチベット美術の画像資料について、撮影フィルムのデジタル化を行い、それぞれのデータに関する分析を進めた。また、チベット美術に関するテキスト情報の収集と整備を行った。

(3) チベット美術学者正木晃撮影の写真資料に関して、基礎的データの整理を進め、データベース公開のための準備を行った。

(4) これらの画像データをもとに、情報プラットフォームの構築作業を進め、汎用的フォーマットの設計と、入力のためのソフトウェアの開発を行った。

#### ◆平成25年度の研究成果の概要

逸見梅栄の画像データに関しては、およそ1500点について、画像データベースを整備し、インターネット上で公開した。このデータベースは、チベット美術のみならず、人文学の領域における情報プラットフォームの汎用モデルとして設計された。また、『鶴見大学図書館所蔵 逸見梅栄コレクション画像資料3～5』の三分冊（各320頁）を刊行し、紙媒体による成果刊行も行った。

研究分担者の高田良宏は、学術情報リポジトリに関するシステム構築を進め、その成果を『情報処理学会論文誌』や『大学情報システム環境研究』などの当該分野の学術雑誌で発表した。同じく、高本康子は、戦時期満洲における日本人によるチベット仏教調査について、『日本チベット学会会報』等に論文を発表するとともに、日本近代仏教史研究会などの隣接分野研究会や学会において口頭発表を行い、チベット学や仏教美術以外の領域においても、インパクトのある研究を進めた。

### 課題3： 関野貞・竹島卓一による中国史跡調査写真に関する基礎的研究

研究者

国立文化財機構東京国立博物館学芸研究部・調査研究課長 田良島 哲（申請者）

東京大学東洋文化研究所東アジア第一部門・教授 平勢 隆郎

東京大学東洋文化研究所特任研究員 関 紀子

研究期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日（1年間）

◆課題の概要

1930年（昭和5年）から35年にかけて、東方文化学院による中国大陸の文物調査が関野貞とその助手竹島卓一をはじめとするチームによって行われた。調査写真の原板は東京大学東洋文化研究所（以下「東文研」）が所蔵するところであり、『遼金の建築と其仏像』や『中国文化史蹟』に結実する歴史的な画像資料である。

東京国立博物館（以下「東博」）は、2012年度に竹島卓一の遺族から、竹島が保管整理していた当該調査の焼付写真約4400枚の寄贈を受けた。これらには東文研所蔵の写真だけでなく、調査後東方文化学院に納入されず竹島の手元に留められた写真や、この調査に先行する大正期の関野貞の調査写真を含んでいる。また、竹島は焼付写真を台紙貼りにして自ら分類整理し、さまざまな注記を書き込んでいる。これらの注記は、一連の写真の撮影の来歴や当時の文物の保存状況を検討するための、調査の当事者によるきわめて貴重な一次情報である。

本研究においては、東博保管に帰した写真と、東文研所蔵の写真とを詳細に比較調査することによって、調査自体の経緯、被写体の文物に関する情報を取得、広く公開可能な形に整理する。

併せて、この調査に先行する中国文物調査との関連についても展望を得ようとするものである。

◆平成25年度の研究実施状況

特任研究員 関紀子が東文研所蔵の焼付写真を精査して、整理番号・竹島自身が付与した CF/CP 番号、原板の有無等の写真に関するメタデータを確認した。

その上で、関が定期的に東博を訪問して、東文研所蔵の写真との照合作業を行った。また、『遼金時代の建築と其仏像』『熱河』『中国文化史蹟』等の既刊の著作に掲載された図版との関連についても調査した。

◆平成25年度の研究成果の概要

東文研所蔵の焼付写真と東博所蔵の竹島旧蔵写真の調査及び照合作業をほぼ完了し、重複する写真、両機関が独自に所蔵する写真を確定することができた。同時にアルバムや台紙への書き入れ等から撮影時期・撮影場所の同定を進めることができた。

調査成果は『東洋学研究情報センター叢刊17 東方文化学院旧蔵建築写真目録』に反映されている。

課題4：政治的リスクと人の移動：中国大国化をめぐる国際共同研究

研究者

慶應義塾大学総合政策学部・准教授 加茂 具樹（申請者）

中央研究院社会学研究所・特聘研究員 所長 蕭 新煌

中央研究院社会学研究所・副研究員 陳 志柔

中央研究院社会学研究所・副研究員 吳 介民

翰林大学校社会科学大学社会学科・教授 朴 濬植

ゲッティンゲン大学人的資源管理・アジアビジネス講座・教授 Fabian J. Froese

東京大学法学政治学研究科・教授 高原 明生

東京大学東洋文化研究所新世代アジア部門／東洋学研究情報センター・教授 園田 茂人

研究期間：平成25年4月1日～平成27年3月31日（2年間）

#### ◆課題の概要

地政学的変化は、社会科学の再編成を惹起する。冷戦体制のもとで近代化研究が進み、日本の高度成長によって日本研究から多くの魅力的概念が提示されたように、中国の大国化はさまざまな社会科学的な研究テーマを生み出し、新たな秩序形成の過程で新たな概念や分析枠組み、理論が作られつつある。中国モデルや北京コンセンサス論などは、その代表的なケースだが、政経分離を前提に日本や台湾との交流強化をめざす中国の姿は、新しい研究課題群を生み出しつつある。

台湾では「台商研究」と呼ばれる研究群が生まれ、中国大陸に渡った台湾人に関する総合的な研究がなされつつある。日本でも、ビジネスや留学、観光を通じた人的交流が盛んになっていることをベースにした研究群が生まれているが、その際、必ずしも比較研究が十全に行われているわけではない。1990年代以降、中国への投資を加速化させている韓国や、アジアから少し距離を置いているドイツなどとの比較は、中国台頭のチャンスとリスクをどう見積もり、経済的にどのような関係を構築しようとしているかを考える、きわめて魅力的な研究テーマとなっている。

東洋文化研究所は、中央研究院社会学研究所と4年にわたる研究交流を続けてきたが、従来の共同ワークショップの共催から、より焦点をもった共同研究へとシフトし、中国との人的移動をめぐる国際共同研究を本格始動させたい。その成果は、所内でのワークショップや国際学会などで紹介されることになる。

#### ◆平成25年度の研究実施状況

初年度は、まず研究者の糾合と問題意識の共有、今後の研究方針をめぐる意見交換を中心に活動を実施した。具体的には平成25年7月22日（月）、韓国から朴、台湾から蕭と吳、陳、ドイツから Froese、それに日本から李賢鮮（最初の計画には入っていなかったが、朴からの要請により急きょ参加することとなった）と園田が出席してワークショップを開催し、それぞれの研究成果と本プロジェクトに対する期待を報告した。また、平成26年3月18日、19日の両日を利用して、第二回の研究会を実施（すべて非公開）。前回の議論を踏まえた上で、特にデータを踏まえた各地域の特徴の析出と、その特徴を説明する枠組みについての検討を行った（参加者は前回から Froese を除いたメンバー）。同時に、アジア学生調査第2波調査を実施し、比較のための土台となるデータを獲得した。

◆平成25年度の研究成果の概要

各国の事情を比較したところ、(1) 日本と台湾が中国の政治リスクを強く意識しているのに対して、韓国とドイツはそうではない、(2) 日本の場合には対中投資が始まる際に「過去の戦争」をめぐる反省が支配的だったのに対して、台湾の場合には、こうした歴史的経緯がビジネスに持ち込まれるケースが少ない、(3) これに対して台湾の場合、もともと大陸と政治的な緊張関係があることもあって、もともと非公式な関係でのビジネス処理に向かいやすく、中国対台湾といった「国際関係」として処理されないことから、多くのリスクが個別に処理される傾向があり、(4) 韓国は、日本のビジネスマンが対中進出へ消極的な姿勢を示していることを、むしろチャンスと見る傾向が強く、こうした錯綜した状況が東アジアに存在している、(5) これに対して政経分離を原則に海外市場に進出してきたドイツにとっては、そもそも政治リスクは企業内ばかりか、メディアでも大きく扱われることが少ない、といった諸点が明らかになった。

以下、各プロジェクトの活動状況等をまとめた

1. 共同利用・共同研究活動の状況

(1) 共同研究のための研究会、シンポジウム等の実施状況

開催期間	形態 (区分)	対象	研究会等名称(課題番号)	概要	参加人数
H25. 4. 13	研究会	国内	書誌データ検討会 (課題1)	書誌4件の検討と、レクチュア「初期図書寮蔵書の問題点について」	13名
H25. 5. 17	研究会	国内	書誌データ検討会 (課題1)	書誌5件の検討	11名
H25. 6. 21	ワークショップ	国際	Kevin O'Brien 教授と語る日米中国研究の過去・現在・未来 (課題4)	日米における中国研究のあり方をめぐる意見交換	8名
H25. 6. 24	講演会	国内	Kevin O'Brien 教授講演会(1) (課題4)	"Relational Repression in China: Using Social Ties to Demobilize Protesters" をめぐって	18名
H25. 6. 26	講演会	国内	Kevin O'Brien 教授講演会(2) (課題4)	" Revisiting 'Rightful Resistance in China' " をめぐって	23名
H25. 7. 5	研究会	国内	書誌データ検討会(課題1)	書誌3件の検討	12名

H25. 7. 22	研究会	国際	「政治的リスクと人の移動」キックオフ会 (課題4)	キックオフミーティング	8名(研究会メンバー)
H25. 8. 27	シンポジウム	国際・一般	龍門石窟と関野貞 (課題3)	人間文化研究機構プロジェクトに関紀子が参加。参加者は4カ国(日本・中国・台湾・韓国)。話題提供は日本と中国。	130名(概数)
H25. 9. 19	研究会	国内	書誌データ検討会 (課題1)	書誌3件の検討	11名
H25. 10. 18	研究会	国内	書誌データ検討会 (課題1)	書誌5件の検討	10名
H25. 11. 24	研究会	国内	チベット情報プラットフォームの構築と公開(課題2)	旧・満洲において第二次世界大戦前に行われたチベット仏教に関する調査を対象に、当時、収集された写真資料、公開された印刷物などに関する研究発表・討議が行われた	8名
H25. 11. 28	研究会	国内	成果報告予習会 (課題1)	研究成果報告会の予行演習と、研究発表内容の検討	12名
H26. 1. 31	研究会	国内	書誌データ検討会 (課題1)	書誌3件の検討	10名
H26. 2. 27	ワークショップ	国際	Understanding Cultural Diversity in Asia: Analysis of Second Wave of Asian Student Survey (課題4)	アジア学生調査第2波調査の概要報告と討論	30名
H26. 3. 7	研究会	国内	書誌データ検討会 (課題1)	書誌2件の検討と研究発表「漢籍の伝授—金澤文庫本『春秋経伝集解』を例として—」	11名
H26. 3. 18-19	研究会	国際	「政治的リスクと人の移動」会合(課題4)	第2回研究会	11名

(2) 上記(1)の研究会、シンポジウム等の参加状況

区分	平成25年度						
	機関数	参加人数			延べ人数		
		外国人	大学院生	外国人	大学院生		
東京大学内	7	44	16	19	53	17	19
国立大学	6	8	1	3	13	6	3
公立大学							
私立大学	5	38	9	16	75	10	35
大学共同利用機関法人	2	4	2	1	14	10	5
独立行政法人等公的研究機関	3	4			10		
民間機関	1	1	1		1	1	
外国機関	10	23	19	1	31	27	1
その他	2	2			9		
計	36	254	63	75	336	86	98

区分の不明な参加者については、概数を計にのみ計上している。

(3) 共同利用・共同研究に供する施設・設備及び資料等の利用状況等

○データベースの作成・活用・利用・公開状況

課題	データベース名	蓄積情報の概要	公開方法	蓄積量/利用・提供状況	
				蓄積量	50.4GB
課題1	デジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」	図書寮文庫収蔵漢籍の書誌データ及びそれに基づく分類目録と、分類目録に附属する全文カラー写真画像	将来のインターネット公開を想定した、研究所内独立機試験公開	利用(アクセス)件数	公開予定
課題2	鶴見大学図書館所蔵逸見梅栄コレクション画像資料1~5	戦前の満洲で収集されたチベット美術に関する画像データ	刊行物	蓄積量	1491件
課題2	鶴見大学図書館所蔵逸見梅栄コレクション画像資料	戦前の満洲で収集されたチベット美術に関する画像データ	インターネット	利用(アクセス)件数	関係研究者のみの公開

#### (4) 独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

・デジタルメディアの使用を前提とした漢籍書誌調査の方法を模索し、紙上の著録を併用して水準を保ちつつ、デジタル環境に応じた統一も行った。全文写真画像の併用により、詳細な著録について便宜を得る一方、書誌データに画像データを担保する機能を有たせた。またデジタルデータによって研究情報の共有が容易となり、漸次書誌学的検討の開放がなされている。そうした前提のもと、漢籍の伝来と受容に焦点を置き、原本そのものの研究を中心としたことで、中国学、日本学各分野の研究者が参加し、知見を集めることができた。【課題1】

・人文学における学術情報リポジトリの構築をめざし、チベット仏教美術の画像データベースを構築した。画像データのファイル形式、メタデータの選定、ハーベスティングへの対応など、画像データベース構築のための基本となる問題の解決を進めた。また、戦前の満洲におけるチベット仏教調査の分析を行うことで、わが国のチベット研究史をとらえ直すとともに、当時の東洋学研究そのものの再評価につながる研究成果をあげた。【課題2】

・通常中国の「政治リスク」は、中国政治を主な研究課題とする研究者によって担われてきたが、これをビジネスマンによる評価と置き換えたことで、今までにない視点からの研究へと展開することになった。台湾人ビジネスマンを中心に展開されてきた研究群も、他国との対比を行うことで、その特徴がビビッドに描かれるようになり、多くの研究者から注目されるプロジェクトとなっている。また、センターの機関推進プロジェクト「アジア学生調査第2波調査の実施」とタイアップすることで、より広い視点を獲得し、中国の台頭をめぐるアジアの状況を広く把握することができるようになった。学生による調査参加を通じて、研究プロジェクトとしての広がりを得つつある。【課題4】

#### (5) 国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

・東京大学東洋文化研究所と研究代表者の属する慶應義塾大学附属研究所斯道文庫の双方を幹事機関と位置付け、研究メンバーの研修や個別の研究に後者の機能を、データの検討や総合と成果の公開に前者の力を借りるなど、役割分担を行ったことで、双方の関係者がメンバーに連なった。また研究情報の共有公開を踏まえ、大学共同利用機関在籍の研究者にも参加を要請した。さらに研究所間、私立大学間の既成の協力態勢を利用し、関係事業、関係講座の参加者、修了者の参加を進めた。【課題1】

・共同研究のグループは国立大学法人、私立大学、および民間の研究機関に属する研究者で構成されているが、とりわけ、チベット美術を専門とする研究者に加え、データベース開発、人文学の情報処理、言語処理などの専門家が参画することで、所属機関の枠を超えた学際的な研究を進めた。さらに、データベースの作成と公開においては、現在、わが国のあらゆる領域の学術情報のデータベース化を進める「学術資源リポジトリ協議会」の全面的なバックアップを受けた。【課題2】

・平成25年6月25日から7月7日まで東京国立博物館で開催した「特集陳列 平成24年度新収品」で、平成24年度に竹島卓一氏の令嬢池内節子氏から東京国立博物館に寄贈を受けた「中国史跡写真」の一部を展示した。【課題3】

・平成25年度は、データの収集と方向性の模索に多くの時間が費やされたが、平成28年度には学生調査の結果が公開されることから、より多くの研究者が、データを用いた分析を行うようになるだろう。平成26年度には日本と台湾で公開シンポジウムを計画しており、より広く研究者の関心を得る可能性が高い。現在、オーストラリアのシドニー大学から共同研究の提案を受けており、世界的な反響もある。【課題4】

(6) 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組

・大学院在籍者や、それに相当する若手研究者に対し、経験的技能を含むと見られる古典籍原本書誌調査の方法を、原本を所蔵する機関の利点を活かして指導した。具体的には、研修プログラムを用意して、一定期間の修了を以って調査事業に関わらせ、報告されたデータをさらに補訂し、メンバーの検討を加えることで、その精度を上げ、熟練を進める方策をとった。【課題1】

・金沢大学人間社会環境研究科で実施されている博士課程教育リーディングプログラム「文化資源マネージャー養成プログラム」所属学生に対し、研究会参加要請、現地調査派遣等を行い、共同研究の活動に積極的に関与させることで、研究メソッドの修得や、研究成果の社会への還元の方法などを学ばせることができた。【課題2】

・特にアジア学生調査第2波調査については、学生のイニシアチブによる調査票調査を実施したことにより、学生たちの「中国の台頭」が与える影響への関心が大きく高まった。協力大学のキーパーソンをワークショップに招待したことから、今後、アジアの主要大学でも、同調査に対する関心が高まる可能性があり、すでに高麗大学校、ソウル国立大学、国立台湾大学からは、大学院生を中心にした共同研究の申し出を受けている。【課題4】

(7) 関連分野発展への取組（大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築 等）

・日本学術振興会科学研究費補助金による基盤研究(A)「宮内庁書陵部収蔵漢籍の伝来に関する再検討—デジタルアーカイブの構築を目指して—」との協力関係を有ち、稀少本のデジタル化公開にシステムの基礎を提供し、稀少本に限らないデータ公開を促している。その成果を核に、京都大学人文科学研究所運営の「全国漢籍データベース」とのデータ共有を目指し、宮内庁の運用する「図書寮文庫所蔵資料目録・画像公開システム」との接属を視野に入れている。【課題1】

・本研究課題をさらに発展させ、国際的な標準規格となる仏教美術の総合的なデータベースの構築をテーマにした課題で、科学研究費補助金（基盤研究A）（海外学術）が採択され、より包括的、多角的、かつ汎用的なデータベースの作成へと展開している。そのための国内外の研究者間のネットワーク構築が、着実に進められている。【課題2】

・上述（5）のように、シドニー大学からは共同研究の申し出をいただいております。現在、共同研究の申請に向けての議論を開始したところである。また、学生調査のより詳細な分析と研究論文の発表、データ公開に向けての準備は、本センターの機関推進プロジェクトとして、平成26年度以降、進めていく予定となっている。【課題4】

## 2. 共同利用・共同研究による研究成果

(1) 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数（参加研究者がファーストオーサーであるものを対象）

区分	平成 25 年度	
論文数	25	
うち国際学術誌に掲載された論文数	(21)	0(0)

※下段の（ ）内には、東文研以外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で以下に記入。

役割	文献調査の指導、調査研究全般の指導を行った	
区分	平成 25 年度	
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	13 (13)	0 (0)

※下段の（ ）内には、東文研以外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下にインパクトファクター以外に顕著な業績と判断できる適切な指標とその理由を記載の上で、掲載雑誌名等を記載。

※東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		新聞掲載による大衆的関心の喚起	
掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
毎日新聞	1	注目される「動く中国人」の役割	園田 茂人

(2) 共同利用・共同研究による特筆すべき研究成果（特許を含む）

- ・デジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」【課題1】
- ・平勢隆郎・塩沢裕仁・関紀子・野久保雅嗣編『東洋学研究情報センター叢刊17 東方文化学院旧蔵建築写真目録』平成26年2月の刊行。【課題3】

(3) 共同利用・共同研究活動が発展したプロジェクト等

プロジェクト名	主な財源	プロジェクト期間	プロジェクトの概要
国際標準となるチベット美術情報プラットフォームの構築と公開 (課題2)	科学研究費補助金	H25-29	本研究課題をさらに発展させ、国際標準となる情報プラットフォームを構築することで、学術情報データベースのモデルを提示する。

(4) 1 - (1) 以外の公開講座、公開講演会等の実施状況

開催期間	形態(区分)	対象	公開講座等名称	概要	参加人数
H25. 12. 7	公開講演会	一般	「日本漢籍集散の文化史的研究— 「図書寮文庫」を対象とする通時的蔵書研究の試み—」成果報告会 (課題1)	宮内庁書陵部図書調査官小森正明氏による講演と、研究参加者による研究報告6件、研究代表者によるデジタルアーカイブ「宮内庁書陵部収蔵漢籍集覧」の紹介	76人

※具体的な年次活動報告及び最終報告書はセンターHP で公開中 <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

2) センター機関推進プロジェクト

研究情報の収集，資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを所内で募集し，実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

平成25年度センター機関推進プロジェクト一覧

	No.	分野	申請者	プロジェクト名
重点	1	文献	松田	中華圏現代史貴重史料の収集・整理
	2	文献	名和	日ネ協会旧蔵資料データベース拡充
	3	造形	板倉	東アジア美術デジタル・アーカイブ・プロジェクト
	4	造形	平勢	東文研蔵貴重物品の整理とデジタル化
	5	社会情報	園田	アジア学生調査第2波調査の実施
一般	1	造形	榊屋	イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイブ
	2	社会情報	田中	日本政治・国際関係データベース

## 重点プロジェクト

### 1. 中華圏現代史貴重史料の収集・整理 / 松田 康博

[文献]

#### ◆全体計画

本プロジェクトは、「台湾現代史貴重史料の収集・整理」（機関推進プロジェクト平成22-24年度）の後継プロジェクトである。申請者は、これまで長年にわたり台湾を含む現代中華圏の貴重史料を私費で収集してきた。東文研に移ってからは個人研究費などを使って収集を継続した。これらの史料の多くは台湾の図書館を含めて、どこにも公開されていない貴重なものである。「台湾現代史貴重史料の収集・整理」は、こうした貴重資料の収集をプロジェクトとして予算化し、より系統的・機動的な収集と整理を行うものであった。これまでも台湾のみならず香港や中国大陸の貴重史料を収集してきたが、今回新プロジェクトとして、台北に加え、他地域の古書店の史料供給源を開拓し、散逸してしまう前に現代史に関する貴重史料を収集することが目的である。

#### ◆今年度の進捗状況

科学研究費補助金、個人研究費、会議参加（全額招待）による台湾、中国への出張機会などを利用して積極的に史料収集を進めた。平成26年2月現在、所定の予算と部門基盤構築費を併せ、古書・档案・その他について以下の収集が済んでおり、東文研図書室に納入されている。

北京での収集分

書名
全国幹線郵路転地名冊
新聞工作手冊
学習資料
毛主席詩詞注釈彙編
毛主席詩詞教材
毛主席詩詞教材（初稿）
毛主席詩詞講義
縦情歌唱紅太陽歌曲集
天安門詩抄
毛主席詩詞注解
毛主席詩詞読解
毛主席詩詞試解
六本儒家反動啓蒙読物批注
動乱「精英」劣蹟録
革命委員会好
「毛沢東選集」歴史事件和歴史人物簡介
万歳毛主席歌曲集
捍衛社会主義共和国
整党建党文件（1951年9月）
丰福生同志学習毛主席著作心得体会報国
論三八作風
毛主席革命活動參考資料
紀念中国共産党五十週年
毛主席和党中央其他領導入同志關於無産階級世界革命和国际主義問題的言論摘録
共産主義社会
劉少奇：馬克思列寧主義在中国的勝利ほか
「蘇聯共産党（布）歴史簡要読本」中級組教学計劃（草稿）

學習與批判參考資料（一・二・五・六）
歷史上法家和進步思想家對孔孟儒學的批判
向反黨反社會主義的黑線開火
馬克思・恩格斯「共產黨宣言」
馬克思「哥達綱領批判」
列寧「國家與革命」
評「前線」「北京日報」的資產階級立場
論林彪反黨集團的社會基礎
論對資產階級的全面專政
毛主席的重要指示
高舉毛澤東思想偉大紅旗積極參加社會主義文化大革命
一九五六年到一九六七年全國農業發展綱領
中國共產黨第八屆中央委員會第十一次全體會議公報
農業生產合作者示範章程草案
中國共產黨兩條路線鬭爭史講義（修改版）
闖與創
敬祝毛主席萬壽無疆
各民族人民歌唱紅太陽
毛主席論無產階級世界革命和國際主義
在中國共產黨第十次全國代表大會上的報告
民兵步槍射擊教材
學習「新民主主義論」ほか
把民兵隊伍辦成毛澤東思想的大學校
毛主席論黨的建設
毛主席語錄（中英版）
最高指示
學習「為人民服務」ほか
中國共產黨中央委員會主席毛澤東同志支持美國黑人抗暴鬭爭的聲明
政治工作手冊（二）
抓活思想的六十多個怎麼辦
中國共產黨中央委員會關於無產階級文化大革命的決定
中共中央關於農村無產階級文化大革命的指示（草案）
以毛主席為代理的無產階級革命路線的勝利
大樹特樹偉大統帥毛主席的絕對權威、大樹特樹偉大的毛澤東思想的絕對權威
最高指示・對於馬克思主義的理論、要能夠精通它、應用它、精通的目的全在於應用

台北での購入分

	書名・檔案・その他
匪情研究（7冊）	
自由報廿年合集①、⑥	
科技情報（第68-71、73、75期）	
1949-1989年の中国（1-2巻）	
投石計劃案	
共黨問題研究（35冊）	
枕戈待旦	
索引	
最新中国区域地図（中華民國63年）	
最新中国分省地図（中華民國67年）	
最新世界分国図（中華民國71年）	
中華民國分省詳図（中華民國53年）	
最新中国地理教科図（中華民國50年）	
最新中華民國地理教科図（中華民國46年）	
中華民國地図集第一冊 台湾省（中華民國61年）	
中華民國地図集第五冊 中華民國總図（中華民國56年）	
中華民國地図集第二冊 中亞大陸辺疆（中華民國56年）	
世界戰略形勢図集（中華民國49年）	
分色照片地形図（金廈地区）（中華民國57年）	

西藏研究
民国以来中央对蒙藏的施政
西藏文化的新研究
国軍軍事學術月刊佳作選輯
国共兩党八十年分合史
嶺海微瀾
蹇蹇錄
抗戰八年
共匪治安
中国與國際問題論著
国防地理
世界最進步的憲法學說
国民革命的印証
自由中国經濟建設
中国經濟問題
黃埔建校六十年專輯
從專員到總統
桑榆墨韻
人民不会忘記：八九民運實錄
領袖言行
美蘇情報機構群相
城鎮戰教範（草案）
国軍地面部隊輕兵器射擊訓練六〇迫擊砲
国軍電信保密教材第一集（一般軍官使用）
管区後備部隊教材彙編
簡吉與台灣農民組合運動：漫漫牛車路紀念特展（專輯）
觀人誌
航空發動機汽缸鍍鉻研究報告書
陸軍特種技術預備軍官班通訊錄
戰爭原則
社会救濟
僑胞復員概況
社会研究
学校復員
貸金公費獎學金
兩年来的善後救濟
陸軍軍官学校学生第一總隊同學錄
中華婦女反共聯合会常務委員、委員、設計委員通訊錄
海外僑團工作幹部講習会學員手冊
地方自治的理論與實際
戰時警察實錄「保密防諜篇」
台灣省民防幹部教材彙編
袖珍世界列國圖
袖珍中国分省精圖
民防工作人員手冊
国民大会憲政研討委員會委員手冊
台灣警備總司令部・軍管区司令部小部隊政治作戰教材
台灣警備總司令部・軍管区司令部基層政戰幹部工作手冊
工作手冊
新疆問題
西藏問題
西藏境界簡說
國際現勢週刊（29冊）
中華民國中央軍事院校校友會成立代表大會
空軍指揮參謀学校中隊軍官班第13期學員簡歷冊
賞狀（5枚）
勳章および勳章証書（2組）

天安門事件デモ用ポスター
何応欽將軍講話原稿（2組）
反共自覚運動宣伝参考資料
陳新安関連档案
革命実践研究院党政建設研究班第49期同学録
空軍軍官学校第7期現有同学通信録
国防大学聯合作戦系第一期同学通訊録
国防大学聯合作戦系第一期同学通訊録（中華民国72年）
国防大学聯合作戦系第一期同学通訊録（中華民国73年）
国防大学聯合作戦系第一期同学通訊録（中華民国76年）
行政管理研究班第四期研究員手冊
大陸共区民意調査報告
認識敵人（第五卷第一輯）
戴雨農先生伝
陸軍第64軍抗戰戡亂經過紀要
瀛海同舟
行政院蔣院長限論集
党史與政綱
湯惠蓀先生言論集
另一種戦争
台湾民族運動小史
中国青年党建党五十週年紀念特刊
胡宗南先生逝世廿五週年紀念文集
從保衛金馬到反攻大陸
第一屆立法委員名鑑
陸軍軍官学校予備軍官訓練班第一期同学録
中華民國国軍英雄伝
黄朝琴先生紀念集
越南總統台湾訪問関連資料一式

◆具体的な成果物

「台湾現代史貴重史料の収集・整理」プロジェクトで収集された貴重史料とともに、所定の手続きを踏み、順次東文研図書室に納入している。平成25年度から「現代台湾文庫」として公開されており（「現代中国文庫」は公開準備中）、東文研のホームページでもその紹介を行っている（<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ymatsuda/jp/project.html>）。「現代台湾文庫」に関しては、日本台湾学会のメールサービスを介して400名以上の学会員にその存在を広報した。

なお、档案の整理に関しては、依頼を予定していた専門家の予定がつかず、遅れが出ている。このため、予算はすべて史料の購入に充てた。平成26年度には、別の人材を調達して年度当初から整理を開始し、整理・公開を終えたい。また年度内に「現代台湾文庫」に関するセミナーを計画していたが、報告者の日程が合わず、次年度に持ち越されることとなった。

2. 日ネ協会旧蔵資料データベース拡充 / 名和 克郎 [文献]

◆全体計画

社団法人日本ネパール協会の旧蔵資料は、1950年代から70年代初頭に主にネパール国内で出版されたネパール語及び英語の多様な書籍・パンフレット等からなる、貴重なコレクションである。本プロジェクトは、同資料についての基本的なデータベースを作成することを目的とした昨年までのプロジェクト「日ネ協会旧蔵資料データベース構築」を受け継ぎ、遅れていた資料

のスキヤニングを中心に作業を進めるものである。

#### ◆今年度の進捗状況

当初の計画に基づき、3名のアルバイトを雇用し、日本ネパール協会旧蔵資料の内、著作権上公開に問題ないものについて重点的にスキヤニングを進めた。平行して、これまでスキヤンしてきたデータの整理・確認を行った。その過程で問題点が発見された画像については新たにスキヤンを行った。

本資料に含まれる冊子の多くは、複数の図書・雑誌等を一冊のハードカバーの冊子でまとめた形になっているため、見開き部分のスキヤンが通常のスキヤナではしばしば困難だという問題がある。本年度は、アルバイトが2人同時に作業出来るよう、見開き部分近くまでスキヤン可能なスキヤナと、作業の為のノートPC（当該スキヤナがWindowsのみ対応で、研究室のMacでは作業出来ないため）を購入し作業を進めたが、その後見開き部分のスキヤンがさらに容易になる非接触型のスキヤナが比較的低価格で発売されたため、この機材も購入し、当該ページの状態により使い分けつつ作業を進めた。

#### ◆具体的な成果物

日ネ協会旧蔵資料に関する冊子体の目録としては、既に昨年度に文献目録を刊行しており、今後の刊行計画はない。その後発見された誤植等に関しては、下記のインターネット上でのデータベース公開時に、あわせて公開する予定である。

インターネット上のデータベースに関しては、年度後半から担当が在外で直接資料現物に当たることが出来ないため各種調整作業が遅れ、公開に至っていない。来年度の帰国以降に作業をすすめ、出来るだけ来年度中にとりあえずの公開にこぎ着けたいと考えている。

### 3. 東アジア美術デジタル・アーカイブ・プロジェクト / 板倉 聖哲 [造形]

#### ◆全体計画

これまで様々な形で継続的に行ってきた、東アジア地域における美術作品のデジタル・アーカイブ・プロジェクトだが、『中国絵画総合図録 三編』刊行開始を契機として中国美術史学界においてその意義が再認識されるようになった。この刊行の準備が本プロジェクトの中心的な課題の一である。

同時に、日本における東アジア絵画史関連の学術論文情報を提供することで（「東アジア絵画史研究文献目録」）、単に作品情報のみに止まらない、日本における研究の存在意義を示すものとなっている。

#### ◆今年度の進捗状況

まず『中国絵画総合図録 三編』第2巻 アメリカ・カナダ篇Ⅱの出版のためのデータ整理を行った。作業は順調に進んでおり、平成26年5月末もしくは6月初旬の刊行予定である。この巻には、これまで未掲載のボストン美術館、ピーボディー美術館などが含まれており、今後の中国美術史研究に大きく寄与するものと確信する。

次に、滋賀県にある私立美術館、観峰館の収蔵品について、平成25年7月29日～8月1日の間、学芸員らと共に共同調査、新たにデジタル写真撮影を行った。調査の対象は胡鉄梅（1848～1899）、陳年（1876～1970）、丁宝書（1866～1936）、金城（1878～1926）、溥儒（1896～1963）、金榕（1885～1928）、陳康侯（1866～1937）など、近代の画家。これらの資料の整理については、今年度は一部のみで未了である。

公開済みの「幕末期中国絵画所在情報データベース」については、サントリー美術館で開催された「谷文晁展」に情報提供を行った（拙稿「谷文晁、古画への眼差し—東アジア絵画を中心に」『生誕250周年 谷文晁』展図録 サントリー美術館 平成25年7月 pp.186-189）。その後、アクセス数も増加、少なからぬ研究者にその存在を認知された。

さらに、平成25年6月13日に開催した東文研シンポジウム「近代東アジア美術コレクションをめぐる諸問題」、平成26年1月22日に開催した東洋学研究情報センターシンポジウム「東アジア絵画史の可能性—朝鮮王朝の絵画を起点として」も本プロジェクトの一環だが、前者の報告集として『BI』7号を刊行した。

#### ◆具体的な成果物

刊行物 『BI』7号 平成26年3月

刊行物 『中国絵画総合図録第2巻 アメリカ・カナダ篇Ⅱ』（東京大学出版会）平成26年5月末（もしくは6月初旬）刊行予定

WEB公開 既に公開済みの「東アジア絵画史研究文献目録」「幕末期中国絵画所在情報データベース」のデータを追加・更新

#### 4. 東文研蔵貴重物品の整理とデジタル化 / 平勢 隆郎 [文献]

##### ◆全体計画

東文研には、貴重な美術考古資料が所蔵されている。これらは、機会を得てよりよい保存状況下におくことが求められている。しかし、一方において、物品の劣化の問題が急浮上してきており、それらから他の物品を守る必要も生じている。そこで、目につくところから、保存のための処置を講ずべく、本計画を申請することにした。

##### ◆今年度の進捗状況

<1>キャビネットの購入：昨年度に引き続き、ガラス乾板や焼付け写真アルバムを保管しやすいように再配置した。<2>フィルムホルダーの購入：シートフィルムのうち、すでに劣化により臭いを生じるにいたったものがある。これに対処した。<3>中性紙の購入：整理箱内の焼付け写真や写真アルバムの焼付け写真を保護するもの。

##### ◆具体的な成果物

別に進められたプロジェクトにおいて、上記の整理物品を用いて、平勢隆郎・塩沢裕仁・関紀子・野久保雅嗣編『東洋学研究情報センター叢刊17 東方文化学院旧蔵建築写真目録』を刊行した。

## ◆全体計画

平成20年、申請者は早稲田大学のグローバルCOEプログラムの一環として、アジア学生調査を実施した。日本、韓国、中国、タイ、フィリピン、ヴェトナム、シンガポールのエリート大学で学ぶ学生を対象に、各大学200サンプルを集めデータを収集した。

本プロジェクトでは、5年後の今年、第2波調査学生調査を実施し、最終的に第1波のデータを含んだデータベースを作りたい。そうすることが、アジア横断型社会調査データ構築の具体的な試みとなるからである。

## ◆今年度の進捗状況

本学文学部と人文社会系研究科で開講した通年の合併授業「国際関係論と社会学の間：第二次アジア学生調査の実施」を利用し、そこに集まった学生たちを調査実施の主要メンバーとした。前回の第1波調査では、東大と早稲田が日本での調査対象となったことから、早稲田大学文学部の山田真茂留教授に依頼し、ゼミ学生の数人を本プロジェクトに参加してもらうことにした。文末に質問票冒頭部分を示したが、この質問票が完成したのが平成25年7月末。それから各国の言語に翻訳し、場所によっては学生が直接現地に赴いて調査票の配布・回収を行い、場所によっては、調査対象大学の関係者に調査票の配布・回収を依頼した（各大学200サンプル。男女100サンプルずつ、各学年50サンプルずつ、文系・理系100サンプルずつの割当法を採用）。調査対象大学と調査期間は以下の通り（カッコ内が実際のサンプル数）。

## 日本

東京大学(230)・早稲田大学(234) 10月～11月

## 韓国

高麗大学(395)・ソウル大学(345) 9月～10月

## 中国

北京大学(200)・清華大学(200) 10月

復旦大学(200)・上海交通大学(200) 9月～10月

香港大学(240) 9月～12月

## 台湾

国立台湾大学(200)・国立中山大学(200) 9月～10月

## フィリピン

フィリピン大学ディリマン校(205)・デラサール大学(200) 9月～10月

## ヴェトナム

ヴェトナム国家大学ハノイ校(270)・ホーチミン校(261) 9月

## タイ

チュラロンコーン大学(211)・タマサート大学(219) 9月

シンガポール

国立シンガポール大学(321) 10月～11月

平成26年2月27日には、博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・統合人間学プログラム」と共同でシンポジウム Understanding Cultural Diversity in Asia: Analysis of Second Wave of Asian Student Survey を実施した。

◆具体的な成果物

園田茂人「注目される『動く中国人』の役割」『毎日新聞』平成26年2月10日（夕刊・文化面）  
園田茂人「中国の台頭とアジアの将来：アジア学生調査第2波調査・レポート」『アジア時報』平成26年4月号（予定）

※別紙質問票については 参照 [http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/pdf/report\\_sonoda2013.pdf](http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/pdf/report_sonoda2013.pdf))

※以下は質問票冒頭部分

---

---

### ***Questionnaire for Asian Student Survey 2013: Master Questionnaire***

As globalization of economy proceeds, the necessity to understand different attitudes and opinions in different countries increases. The case of Asia is no exception. Or we should say that we have come to the stage where we have to have deep understanding of Asian realities in comparative perspectives.

This survey is designed for the purpose of understanding how university students in top Asian universities look at the World and their own life and future career. The data will be used only for academic use and processed digitally. So please tell us your frank opinion.

When you answer the questions, please indicate it by .

If you have any questions, please contact with:

Prof. Shigeto Sonoda (Institute for Advanced Studies on Asia, the University of Tokyo)

E-mail: [shigetosonoda@ioc.u-tokyo.ac.jp](mailto:shigetosonoda@ioc.u-tokyo.ac.jp)

---

---

## 一般プロジェクト

### 1. イスラーム美術・建築作品の画像・情報アーカイブ / 梶屋 友子 [造形]

#### ◆全体計画

世界の様々なコレクションに収められているイスラーム美術作品やイスラーム地域各地に残されたイスラーム時代の建築作品の調査研究を行って収集した画像資料と作品・建築に関する情報や既に蓄積された画像資料を整理・分類・分析することによって、アジアにおいて文化的・国家的自己同一性の追求と形成がいかに美術に即していたかについて、イスラーム地域の事例を供するものである。

#### ◆今年度の進捗状況

インド・イスラーム史跡写真資料の保存作業については、6x6、6x9のネガ・フィルムに対して行った。世界のタイル博物館(愛知県常滑市)所蔵のイスラーム・ラスター彩タイル、大原美術館(岡山県倉敷市)所蔵のフスタート採取のイスラーム陶器片(フーケ・コレクション)に関する情報の整理、分析を行った。

#### ◆具体的な成果物

インド・イスラーム史跡写真については、センターのホームページで公開中(<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>)。イスラーム陶器およびタイルについては、美術館および美術財団所蔵品の画像に関して著作権の問題があるため、出版物の形式で逐次公開の予定である。

大原美術館所蔵のフーケ・コレクション、フスタート採取イスラーム陶器片の一部についての考察・紹介として、『國華』(第1416号)に「アブー・ナスル・アル=バスリー作押し型装飾鉛釉断片」を發表し、世界のタイル博物館所蔵のイスラーム・ラスター彩タイルについては、INAX ライブミュージアム刊『ラスター彩タイル—天地水土の輝き』に個々の所蔵タイルの概要を示した。

### 2. 日本政治・国際関係データベース / 田中 明彦 [社会情報]

#### ◆全体計画

我が国の内政・外交並びに国際関係にかかる重要な政治文書など(国会等での演説、国際的共同宣言、条約、協定、政府文書、報告書等)に関して、その全体とともに、その他の必要事項(演説、宣言者の氏名、タイトル、発表場所、発表年月日等)を収録し、漢字仮名まじりの日本語でデータベース化する。原文が英語、中国語、韓国語である場合、あるいは公的機関による英語訳、中国語訳、韓国語訳が存在する場合には併せて収録する。

#### ◆今年度の進捗状況

今年度は、科学研究費補助金研究成果公開促進費(データベース)が採択されなかったため、東洋文化研究所の個人研究費(運営費)を使ってプロジェクトをすすめることとなった。

予算の関係で、大幅にプロジェクトの運営方法を変える必要があり、当初予定をしていた「1900年代初めの国際政治文書や情報公開された外交文書のデータベース化」と「書式が重要な情報をなす文書の書式改変作業」は作業を断念した。

ただし、日々発生する新たな演説や資料、国会での演説、サミット関連文書、ASEAN 関連文書、TICAD 関連文書と、地球環境問題資料集、日本の安全保障政策資料集など利用者からのリクエストの多い文書を重点的にデータベース化し、更新した。またアクセス数による利用データのランキングの公開なども積極的に行った。

今年度の入力件数については、科学研究費補助金が採択された場合 630件、9MBをデータベース化予定であったが、運営費での大幅縮小のプロジェクト執行となったため、329件、6.5MBとなった。

利用者数については、平均1ヶ月あたり約13万3000件と、昨年度の約10万7000件より約24%増えた。国際情勢の影響もあり、国際政治文書への関心が高まっていると考えられる。

◆具体的な成果物

作成したデータベースは、すべてデータベース『世界と日本』

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/> で、公開されている。

## 5. 研究成果の公開・発信事業

### 1) センターホームページの更新・運営

その時々イベントや成果について、逐次センターのホームページで紹介した(<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp>)。

「共同利用・共同研究拠点事業」については、平成23・24年度に公募プロジェクトとして採択された「関野貞による東アジア文化財写真の整理と分析」(申請者:東京大学大学院工学系研究科・教授 藤井恵介)「新しいアジア像構築の試み:アジア・バロメーターの再分析プロジェクト」(申請者:新潟大学経済学部・准教授 岸保行)の2件について成果報告書を公開した。

### 2) 出版

ニューズレター『明日の東洋学』第30・31号を刊行した。全てのバックナンバーのPDFファイルをホームページ上(<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/pub/newsletter.html>)で公開している。

○第30号(平成25年10月)

『共同利用・共同研究拠点 共同研究課題の研究成果特集』

- ・「香り米」をめぐるインドシナ稲作の新展開 宮田 敏之
- ・関野貞大陸調査と古写真 平勢 隆郎
- ・新しいアジア像構築の試み:アジアバロメーターの再分析プロジェクト 園田 茂人

○第31号(平成26年3月)

『西アジアの議会・政府資料に関する研究特集』

「特集にあたって」 長沢 栄治

「エジプト立憲王制時代の議会議事録－史的価値とデータベース化－」 池田 美佐子

「エジプト立憲王制時代の議会議事録に依拠したエジプト史研究の可能性」 勝沼 聡

「オスマン帝国の官報」 長谷部 圭彦

東洋学研究情報センター叢刊は第17輯「東方文化学院旧蔵建築写真目録」(平勢隆郎・塩沢裕仁・関紀子・野久保雅嗣 編)を刊行し、関連機関への配布を行った。

### 3) アジア研究情報 Gateway

日本国内におけるアジア研究の動向として、若手アジア研究者の研究情報を平成15年度からセンターホームページ上で紹介している。平成25年度は以下の情報を掲載した。

和文掲載 <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/asj/index.html>

英文掲載 <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/asj/index.html>

・中国政治研究の現状と課題 鈴木 隆

**Studying China's Politics Now: The Main Issues Before Us**

・イスラーム地域研究若手研究者の会 佐藤 尚平

**Study Group for Young Researchers in Islamic Area Studies**

・ホームからグローバルへとひろがる人類学 嶺崎 寛子

**Anthropology That Extends Globally from the Home**

### 4) 東洋学研究情報センターセミナー・シンポジウムの開催

対外発信の強化のため、機関推進・公募研究プロジェクトなどの成果公開のための東洋学研究情報センターセミナーと称する公開セミナーの開催を平成25年度に開始した。平成26年度以降も、積極的に開催する予定である。

・平成26年1月22日

シンポジウム「東アジア絵画史の可能性－朝鮮王朝の絵画を起点として」

場所：東京大学東洋文化研究所3階第一会議室

・平成26年2月27日

国際ワークショップ「Understanding Cultural Diversity in Asia: Analysis of Second Wave of Asian Student Survey」

場所：東京大学東洋文化研究所3階大会議室

## 6. 研修事業

### 1) 漢籍整理長期研修

平成25年6月10日～9月6日に実施し、10名が受講した。

### 平成25年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師

日 程	時 間	課 目		講 師	備 考
6月10日 (月)	9:30～ 17:00	開講式(9:30～10:00) オリエンテーション 漢籍版本目録概説 (10:00～17:00)	講義	大木 康 (東洋学研究情報センター長)	
6月11日 (火)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	井波 陵一 (京都大学教授)	
6月12日 (水)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(1)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館教授)	
6月13日 (木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(2)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館教授)	
6月14日 (金)	9:00～ 17:00	朝鮮本について	講義	藤本 幸夫 (富山大学名誉教授)	
6月17日 ～8月30日		所属図書館所蔵漢籍整理及び研究	自習		
9月2日(月)	9:00～ 17:00	東洋文庫について (見学を含む)	講義	會谷 佳光 (東洋文庫図書部閲覧複写課長)	東洋文庫見学を含む
9月3日(火)	9:00～ 17:00	和刻本について	講義	長澤 孝三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
9月4日(水)	9:00～ 17:00	漢籍データベースの利 用と構築	講義	安岡 孝一 (京都大学准教授)	
9月5日(木)	9:00～ 17:00	漢籍補修法	講義	篠原 宏、青池香名子 (宮内庁書陵部)	
9月6日(金)	9:00～ 16:30	漢籍整理実習(3)	実習	高橋 智 (慶應義塾大学教授)	
	16:30～ 17:00	修了式		大木 康 (東洋学研究情報センター長)	

平成25年度漢籍整理長期研修研修員所属先一覧

1. 東京大学法学部研究室図書室
2. 東北大学附属図書館
3. 宮城教育大学附属図書館
4. 金沢大学附属図書館
5. 大阪大学附属図書館
6. 国立国会図書館
7. 慶應義塾大学メディアセンター本部
8. 中央大学図書館
9. 成城大学図書館
10. 島根県立図書館

## 7. その他

- 1) 全国文献・情報センターの一員として四センター（京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター・一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター・神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター）で引き続き連携をとっている。
- 2) 平成25年度国立大学共同利用・共同研究拠点協議会総会が、平成25年12月6日（金）京都市内で開催され本センターも参加した。文部科学省から今後の国立大学の機能強化に向けての考え方や、国立大学改革プランに関する説明がなされ、拠点事業の発展に向けて意見が交換されたほか、平成25年度に実施された各拠点の中間評価結果についても報告があった。本センターにおいても、評価結果とコメントを真摯に受け止め、直ちに共同利用・共同研究拠点実施要領及び共同研究課題募集要項の見直しに着手し、拠点としての活発な活動を目指している。